

中部大会速報

5 愛知県 県立蒲郡東 高校

会場全体を震わせた

白熱の演技とその裏

脚本について

地区大会の前、本来は別の脚本を上演をする予定だったが、先生の勧めもあってこの脚本に決めた。幽霊であるぽっくりさんを通して、今を生きる人達に「生きろ」と訴えている。

演出のこだわり

やはり一番魅せたかったところは、ぽっくりさんが成仏するところである。物語の終盤に、スポットは教室の窓へと当たる。悩みを抱えた高校生たちに生きることの大切さを訴え、最後には自分の迷いも振り切

り、窓から飛び降りたぽっくりさん……その舞台裏にはいろいろなこだわりが隠れている。まず、彼が飛び降りた窓の向こう側には低反発布団が敷かれ、ぽっくりさんの華麗な着地をサポートしている。ぽっくりさんが飛び降りた窓枠は、人間ひとりを支えられるように顧問の先生自らの手でとても頑丈に作られている。そんな縁の下の力持ちたちに支えられ、ぽっくりさんの想いを受け止めたママたちは自分たちの手で遺書を破り捨てた。

キャストの役作り

劇中劇にあたるホラー演出は、憑りつかれた女子高生を演じるために映画を見て研究した。演出上のこだわりから、移動は綺麗に映えるように意識した。また、後半のぽっくりさんを存分に活躍させるために、前半はテンポよく進めた。ケンジの長台詞を尺内に収



夏休み最後の日、学校に忍び込む。

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月24日

作品名

ぽっくりさん



一緒に逝こうと手を広げる生徒たち。

スタッフの苦労

めるのにとっても苦労した。演技を殺さず引き立てるために、曲の編集にもかなりこだわった。舞台上の装置は先生手ずからのものであるが、実はぽっくりさんの衣装や制服のリボンなども衣装・メイク係のハンドメイドである。舞台の装置は一週間余り、ぽっくりさ

んのマントに至ってはたったの数日での完成度まで仕上げた。

舞台裏

本番の前には怪我が多かった。地区大会の前には耳を三針、県大会の前には顎を四針縫った役者がいた。顎の怪我をしたのは本番二週間前だったので、早く復帰できるように美味しいものを食べ、よく笑い、精力を養った。そんな彼はムードメーカーで、いつも部員たちを引っ張ってくれた存在だった。

最後に

本番中にハプニングもあり、本当はもっと楽しめたと思うが、それでもとても楽しかった。

(担当) 香村、齋藤、徐、荻田